

鉄道各社における乗務員室部分の貫通路構造の状況

(2004年2月1日現在)

東武鉄道以外で、乗務員室部分の貫通路構造の欠陥を原因とする喫煙その他の迷惑行為が発生している鉄道会社や路線があるかどうかを、実地調査してみました。

調査対象は、JR旅客6社と大手私鉄15社、および地下鉄と直通運転を実施している中小・第三セクター私鉄のそれぞれ一般型車両とし、2003年1月から2004年1月までの間の、主に平日の朝ラッシュ時に調査を実施しました。

限られた時間内での実地調査のため、細部に少なからず誤りがあるであろうことは避けられませんが、鉄道界全体の中で見ると東武の車両の貫通路構造がきわめて特異なものであるということは、十分に読み取れるのではないかと思います。

車両タイプの分類

1. 前面貫通型(貫通口のある)車両

A. 2編成以上を併結するときに貫通路を使用する車両

a. 客室と貫通路との仕切り扉が存在する車両

ア. 仕切り扉の施錠が可能な車両

(1) 乗客の遮光幕操作が可能な車両

1 A a ア(1)タイプ

(2) 乗客の遮光幕操作が不可能な車両

1 A a ア(2)タイプ

イ. 仕切り扉の施錠が不可能な車両

(1) 乗客の遮光幕操作が可能な車両

1 A a イ(1)タイプ

(2) 乗客の遮光幕操作が不可能な車両

1 A a イ(2)タイプ

b. 客室と貫通路との仕切り扉が存在しない車両(加減速時の風の吹き抜けや連結部からの騒音を防止できないため、乗り心地が多少劣る) 1 A bタイプ

B. 2編成以上を併結するときに貫通路を使用しない車両(貫通口は非常口としてのみの位置づけ)

a. 貫通口を前面中央部に設置しており物理的には貫通路を構成可能だが、貫通路用の幌を取り付けず、非貫通状態で運転する車両 1 B aタイプ

b. 貫通口を助士席(運転席の反対側)寄りに設置しているため、物理的に貫通路構成が不可能な構造の車両 1 B bタイプ

2. 前面非貫通型(貫通口のない)車両

2タイプ

印 一部に地下区間のある鉄道会社を示します。(私鉄のみ、都心側のターミナル駅または直通運転する地下鉄との接続駅付近の短区間であることが多い)

印 地下鉄または地下線乗り入れ用車両を示します。

×印 車両運用上、原則として2編成以上の併結運転を行わない車両を示します。

印 併結運転時に乗務員室部分の貫通路を使用する車両(上記1-Aのすべて)において、貫通路部分の床に残る、たばこを踏み消したときにできたとしか考えられない焼け焦げ跡の数を、印3段階で示しました(印が多いほど焼け焦げ跡の数が多い)。ただしJRの車両については、主に旧国鉄型車両(印)において車内完全禁煙実施以前にできた焼け焦げ跡との区別が難しいため省略し、私鉄のみの表示としました。

!印 貫通路部分でない運転席内の床に、上記の焼け焦げ跡が存在する車両を確認した鉄道会社を示します(私鉄のみ)。運転士または車掌が(回送列車を含む)乗務中に喫煙している事実があることを示す証拠と言えます。

北海道旅客鉄道株式会社（ＪＲ北海道） 711系、721系、731系	1 A b タイプ
東日本旅客鉄道株式会社（ＪＲ東日本） 113系、 115系、 E127系、 211系、 403系、 415系、 417系、 455系、 457系、 701系、 717系 (東海道本線では113系と211系は 1 B a タイプ扱い) ×クモハ123形、 ×203系、 ×207系900代、 E217系 ×209系1000代、 ×E231系800代 103系、 201系、 ×205系、 ×209系 (1000代を除く)、 E231系 (800代を除く)	1 A b タイプ 1 B a タイプ 1 B b タイプ 2 タイプ
東海旅客鉄道株式会社（ＪＲ東海） 113系、 115系、 119系、 クモハ123形の一部、 211系5000代、 213系5000代、 311系、 313系 117系、 クモハ123形の一部	1 A b タイプ 2 タイプ
西日本旅客鉄道株式会社（ＪＲ西日本） 105系、 113系、 115系、 クモハ125形、 213系、 413系、 415系、 471系、 475系 (奈良・和歌山・下関地区の105系と東海道本線・山陽本線の113系・115系は 1 B a タイプ扱いの場合あり、また113・115系の一部の改造車は 2 タイプ) ×クモハ123形、 207系、 221系、 223系 (223系の一部 (瀬戸大橋線用5000代) は 1 A b タイプ) 103系、 117系、 ×201系、 ×205系、 419系	1 A b タイプ 1 B a タイプ 2 タイプ
四国旅客鉄道株式会社（ＪＲ四国） 113系、 121系、 5000系、 6000系	1 A b タイプ
九州旅客鉄道株式会社（ＪＲ九州） 103系1500代の一部、 415系、 457系、 475系、 713系、 717系、 813系、 817系 ×103系1500代、 ×303系、 811系	1 A b タイプ 1 B a タイプ

ＪＲ各社のディーゼルカーは、旧国鉄型を含めすべて 1 A b タイプ。

国内のすべての地下鉄事業者、および地下鉄線または大手私鉄線の延伸路線である第三セクター鉄道事業者（ 埼玉高速鉄道、 北総開発鉄道、 都市基盤整備公団、 東葉高速鉄道、 横浜高速鉄道 ）の保有車両はすべて、 × 1 B a タイプ、 × 1 B b タイプのいずれか。（ 20 ページに掲載した泉北高速鉄道を除く ）

! 東武鉄道株式会社 (2 0 0 3 年 3 月 調 査)

10000系、8000系、6050系、5000系	1 A a ア(1)タイプ
	(一部の車両は1 A a イ(2)タイプへの改造を開始)
30000系	1 A a イ(1)タイプ
× 9000系、 × 20000系	1 B b タイプ
× 1800系 (通勤形改造車)	2 タイプ

西武鉄道株式会社

× 6000系	1 B b タイプ
2000系、4000系、× 9000系	1 B a タイプ
上記以外	2 タイプ

京成電鉄株式会社 (2 0 0 3 年 3 月 調 査)

3200系、 3500系、 3600系	1 A b タイプ
× 3000系、 × 3400系、 × 3700系	1 B b タイプ

京王電鉄株式会社 (2 0 0 3 年 5 月 調 査)

6000系 (都営地下鉄新宿線乗り入れ用のみ)	1 A b タイプ
6000系 (上記以外)、7000系、8000系、9000系	1 B a タイプ
× 1000系 (井の頭線)	1 B b タイプ
× 3000系 (")	2 タイプ

小田急電鉄株式会社 (2 0 0 2 年 1 月 調 査)

× 3000系	1 B b タイプ
上記以外	1 B a タイプ
(1000系の一部は地下鉄線内での非常時のみ貫通路を使用)	

東京急行電鉄株式会社 (2 0 0 4 年 2 月 調 査、全車両 ×)

2000系、 5000系、 8090系、 8590系、 9000系	1 B b タイプ
上記以外	1 B a タイプ

京浜急行電鉄株式会社 (2 0 0 3 年 5 月 調 査)

700系、 旧1000系、 1500系 (地下鉄線内では併結運転無し)	1 B a タイプ
600系、 新1000系、 2100系 (")	1 B b タイプ
2000系、2400系	2 タイプ

相模鉄道株式会社 (全車両 ×)

7000系	1 B a タイプ
8000系、9000系、10000系	1 B b タイプ

名古屋鉄道株式会社 (2 0 0 4 年 1 月 調 査)

× 100系、5500系	1 B a タイプ
× 300系	1 B b タイプ
上記以外	2 タイプ

近畿日本鉄道株式会社（2003年1月調査）	
×3000系、 ×3200系、 ×7000系	1 B b タイプ
「シリーズ21」の各形式（新型車両、客室から貫通路への入り口が助士席寄りにあり、貫通路が斜めに配置されているため、客室からの見通しが悪い）	1 A a イ(2)タイプ
上記以外（助士席部分と貫通路との仕切り壁無し、焼け焦げ跡は助士席部分の床に集中）	1 A b タイプ
南海電気鉄道株式会社（2003年1月調査）	
×2230系（汐見橋線、高師浜線、多奈川線、加太線）	1 B a タイプ
×2270系（貴志川線）	2 タイプ
7000系（車体更新時期が早かった、助士席部分と貫通路との仕切り壁のない車両のみ。焼け焦げ跡は助士席部分の床に集中）	1 A a ア(2)タイプ
上記以外（7000系を含め、客室と貫通路との仕切り扉部分には遮光幕無し。この部分の遮光幕は運転席と貫通路との仕切り壁の内側（運転席内）にあり）	1 A a ア(2)タイプ
泉北高速鉄道株式会社（2003年1月調査）	
×5000系	2 タイプ
7000系	1 A a イ(1)タイプ
上記以外	1 A a イ(2)タイプ
京阪電気鉄道株式会社（2003年1月調査、全車両×）	
6000系、7000系、7200系、9000系、 800系	1 B b タイプ
石山坂本線の全車両（600系、700系）	2 タイプ
上記以外	1 B a タイプ
阪急電鉄株式会社（2004年1月調査）	
8000系、8200系、8300系、9300系	1 A b タイプ
上記以外（一部、助士席部分と貫通路との仕切り壁無し）	1 A b タイプ
阪神電気鉄道株式会社、 山陽電気鉄道株式会社（2003年1月調査）	
×全車両	1 B a タイプ
西日本鉄道株式会社（2004年1月調査）	
×宮地岳線の全車両	1 B a タイプ
×2000系、 ×8000系	2 タイプ
上記以外	1 A b タイプ